

# 安全報告書

平成27年度



横浜高速鉄道株式会社

## ごあいさつ

平素より横浜高速鉄道をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

横浜高速鉄道では、運行の基本である「安全の確保」は、すべてに優先される最も重要な責務であると考え、安全を最優先とする企業風土の定着に社員一丸となって取り組んでおります。

本報告書は、平成27年度の当社における輸送の安全の確保に関する取組みや、鉄道運転事故等の発生状況と再発防止対策などを報告するものです。平成27年度は、安全管理体制の強化を目的として、毎月の安全巡視や教育訓練の実施および安全管理体制に係る内部監査員の養成に加えて、地震発生を想定した列車一斉停止訓練や列車火災を想定した列車内からの避難・誘導訓練を実施しました。こうした訓練等を通して、事故・災害に対し社員一人ひとりが迅速かつ的確な初期対応を行い、お客さまの安全確保が図れるよう、さらなる安全管理体制の構築に努めてまいります。

また、平成27年度は新たな中期経営計画（平成27～32年度）をスタートさせた年でもあります。本計画に基づき、責任 運転事故0（ゼロ）の継続や教育・訓練の強化など、安全・安定輸送の確保のためのさらなる取組みを、全社員の力で推進してまいります。

この安全報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、当社における安全の確保に向けた取組みを皆様に広くご理解いただくために作成いたしました。

是非ご一読いただき、ご意見ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

平成28年6月



横浜高速鉄道株式会社

代表取締役社長 **小松崎 隆**

# 目次

● 会社概要	1
● 安全に関する基本方針	2
● 安全管理体制	3
● 安全確保の取組み	5
● 障害・事故	11
● 安全対策	12
● 営業路線図	14

## 会社概要

●名称

横浜高速鉄道株式会社

●所在地

横浜市中区元町一丁目11番地

●設立

平成元年3月29日

●事業内容

1. 鉄道事業

(みなとみらい21線：第一種鉄道事業者、こどもの国線：第三種鉄道事業者)

2. 鉄道施設内における日用雑貨・飲食物等の販売、飲食業、広告業および旅行業等のサービス事業

3. 不動産の売買、管理および賃貸

4. 前各号に付帯関連する一切の業務

## 経営理念

- 一 私たちは、公共交通機関としての使命を深く自覚し、運行の基本である安全を最優先とし、快適で利便性の高いサービスを提供します。
- 二 私たちは、鉄道事業を通して横浜都心部の活性化や沿線の集客を図るとともに、首都圏の広域的な交通ネットワークの一翼を担います。
- 三 私たちは、健全で安定した鉄道経営を目指します。

## 安全に関する基本方針

当社では輸送の安全を確保するため、「安全方針」を定め、全社員に周知・徹底を図っております。

### ●安全方針

1. 常に安全を最優先とし、人命を第一に行動します。
2. 法令・規程等を遵守し、厳正に職務を遂行します。
3. 思い込みや憶測に頼らず、迅速かつ正確に対処します。
4. 気づき合う職場環境をつくるため、コミュニケーションを大切にします。
5. 問題意識を高く持ち、安全マネジメント態勢の継続的改善に取り組みます。

### ●社員行動規範

1. 企業の社会的使命を認識し、各種法令、規範を遵守し、公正な事業活動に努めます。
2. お客様に安心して、気持ちよくご利用いただける鉄道を目指すため、まず、お客様の視点に立って考えます。
3. 経営情報などの情報を適時、適切に開示します。
4. 事業活動で取得した情報を大切に扱い、社内規定に基づき管理を徹底します。退職後も秘密を保持します。
5. ひとたび事故が起これば、お客様の人命に関わる事業であることを認識し、安全マネジメント体制を確立するとともに、危機意識を持って事に当たります。
6. 環境に配慮した事業活動を行い、環境への負荷を減らし、資源を有効に活用する努力をします。
7. 人権意識を高め、あらゆる差別を廃し、個人を尊重します。
8. 社会的秩序に反する勢力に対しては毅然とした態度で臨みます。
9. セクシュアルハラスメント等差別のない、個人を尊重する働きやすい環境を創ります。
10. 会社は自己実現の場である事を認識し、自ら考え、失敗を恐れず挑戦し、自分の持てる能力を十二分に発揮します。チームとしての力が最大となるよう、和を大切に、誠実に行動します。

## ●安全重点施策

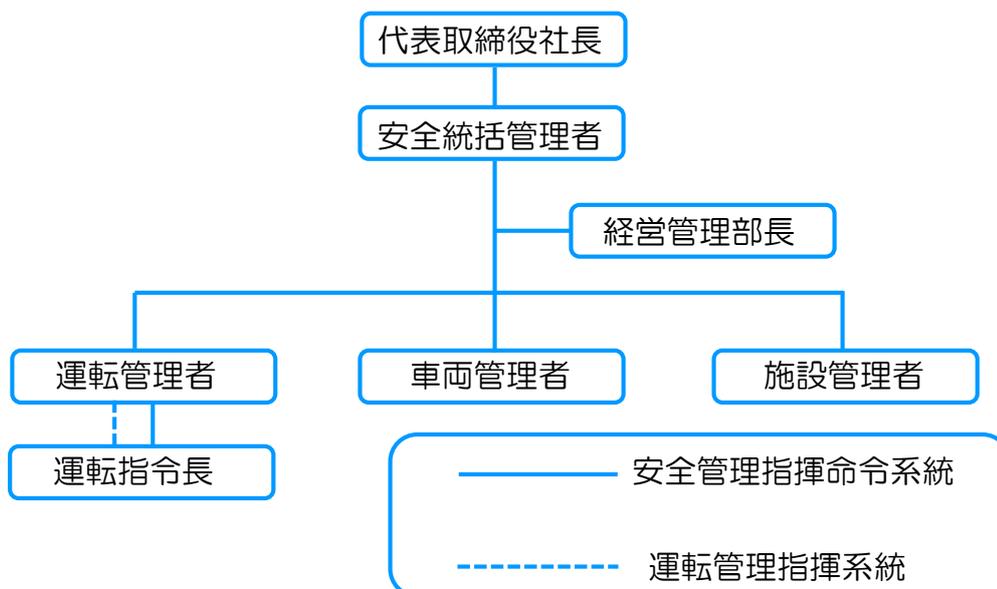
1. 毎月の安全巡視における重点項目を策定し、事故・災害防止に向けた改善に取り組む。
2. 全社員が一丸となって安全対策に取り組むとともに、委託会社等との連携を強化する。
3. 異常時の対応を踏まえた教育訓練の実施と体制の見直しを行う。

## 安全管理体制

代表取締役社長を最高責任者として、安全統括管理者をはじめとする各管理者の責務を明確にして安全管理体制を構築し、運輸安全マネジメント態勢の継続と改善に取り組んでいます。

## ●安全管理体制

### 安全管理体制図



## ●各責任者の責務

代表取締役社長：輸送の安全の確保に関する全ての責任を負う。

安全統括管理者：輸送の安全の確保に関する業務を統括する。

経営管理部長：輸送の安全確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

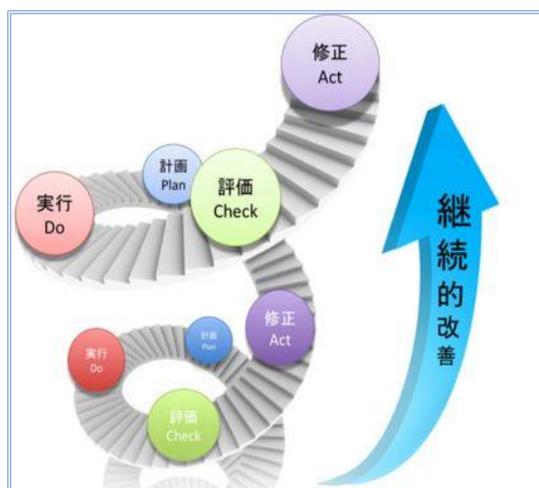
運転管理者：運転に関する事項を統括する。

車両管理者：車両に関する事項を統括する。

施設管理者：鉄道施設に関する事項を統括する。

## ●運輸安全マネジメント態勢の継続と改善

### 安全管理体制のPDCA サイクル



### ◆安全推進会議

安全統括管理者を議長に、経営管理部門、運輸部門の部長、課長および係長がメンバーとなり毎月開催しています。事故・障害の情報共有と原因究明・対策の検討等、安全に関する事項について審議しています。

### ◆安全マネジメント内部監査

内部監査研修修了者と同等の能力を有する者の中より、安全統括管理者が指名した者で構成し、経営管理部門、運輸部門に対し監査を実施しています。

## ●保安監査

平成27年度、関東運輸局より、開業以来2回目の保安監査を受けました。前回の保安監査で受けた改善措置事項については、取組み状況の評価をいただきました。

今回の保安監査において、関東運輸局よりいただいた改善措置事項に対する取組みを確実に実施し、輸送の安全確保のため、安全管理体制のさらなる構築に努めてまいります。

## 安全確保の取組み

### ●経営陣による巡視

平成27年7月17日（金）～7月31日（金）の夏季期間および平成27年12月10日（木）～平成28年1月10日（日）の年末年始期間に、輸送の安全確保および事故防止の徹底、安全意識の向上を図ることを目的として、輸送安全総点検を実施しました。

安全総点検期間中に、経営トップを含む幹部のリーダーシップの下で自主点検を実施し、駅や運転指令所等の現業部門への巡視を通じ、現業監督者との意見交換を行うことで、安全最優先の方針を確認しています。また、委託会社の施設に経営トップが直接赴き、職場巡視と意見交換を実施しました。



現場巡視



委託会社への職場巡視

### ●列車一斉停止訓練

平成28年3月11日（金）の14時46分に、東日本大震災を風化させることなく、地震発生時の被害を最小限に止めることを目的として、列車の一斉停止訓練を実施しました。

訓練内容については、運転指令所より走行中の全列車に対し緊急停止指示を列車無線により配信し実施しております。



運転指令所から列車への一斉停止訓練

## ●異常時総合訓練

平成27年11月6日（金）の終電後にみなとみらい駅～馬車道駅間において、列車火災を想定した異常時総合訓練を運転指令員および駅係員、本社員が合同で実施しました。

ずい道内を走行中の列車内において火災が発生したという想定で、車内の初期消火活動並びに、列車内のお客様を運転台の避難梯子使用により降車させ、最寄り駅まで避難誘導する訓練を実施しました。



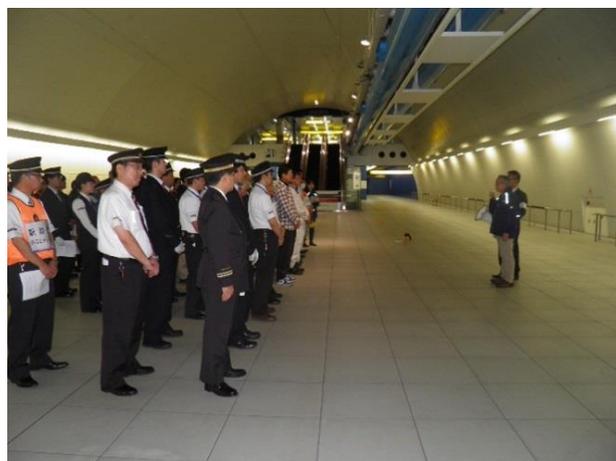
消火訓練



非常梯子による避難



避難誘導



経営トップによる講評

## ●安全教育関係

### ・安全統括管理者講習

平成27年7月22日（水）～7月24日（金）に現業と本社員を含めた全社員に安全統括管理者が講師となり、安全管理規定および安全管理体制等の「安全に関する教育」を行いました。

当社の安全管理体制は、全社員が理解し行動すべきものであるため、今後においても継続して実施してまいります。

安全統括管理者講習



### ・安全啓発センター見学会

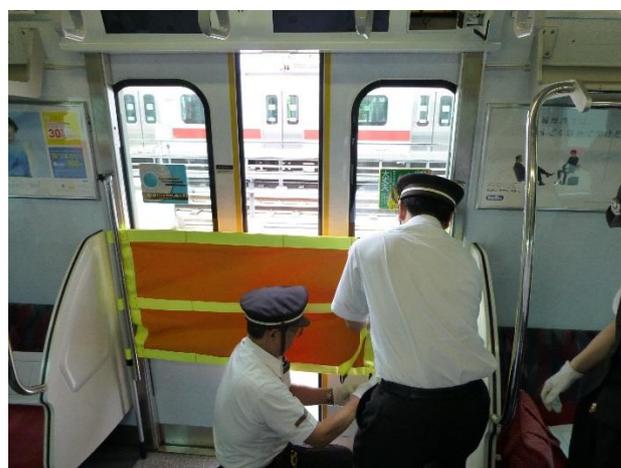
平成27年11月16日（月）に駅、運転指令所、本社合同で、日本航空(株) 安全啓発センターの見学を実施しました。過去の事例から、事故の悲惨さや被害者の心情等を知ること、事故防止への意識の向上を図ることが出来るため、今後も引き続き同様の見学を実施いたします。平成27年度は20名が参加しました。

## ●駅係員異常時取扱い訓練

平成27年5月22日（金）に事故・災害等が発生した際に、係員が落ち着いて行動し確実な初期対応がとれるよう、異常時を想定した訓練を実施しました。平成27年度は列車を緊急に停止させる列車防護訓練、列車ドアの不具合時の対応訓練等を実施しました。



信号煙管による列車停止訓練



列車ドア不具合対応

## ● 転てつ器手回し訓練

平成27年7月24日（金）に運転関係従事員教育訓練要綱に基づき、保安装置故障を想定した転てつ器（ポイント）手回し訓練等の運転訓練を運転指令員および駅係員合同で実施しました。



転てつ器手回し



キーボルトの装着

## ● 防災の日訓練

平成27年9月1日（火）に防災への取り組みとして、列車一斉停止訓練、緊急メール情報受発信、かながわシェイクアウト（いっせいで防災行動訓練）訓練を実施しました。



かながわシェイクアウト訓練

## ●空気呼吸器取扱い訓練

平成27年10月30日（金）に火災発生時等の避難誘導や救命活動を迅速・正確に対応できるよう、外部講師を招き、空気呼吸器取扱いの訓練を駅監督者、係員で実施しました。



空気呼吸器取扱い指導



装着訓練

## ●心肺蘇生・AED取扱い訓練

平成28年2月16日（火）～2月18日（木）に急病人等への救急救命活動を迅速・正確に対応できるよう、日本赤十字社より講師を招き、心肺蘇生術、AED取扱いの訓練を駅監督者、係員で実施しました。



心肺蘇生



AED取扱い

## ●消防訓練

平成28年3月3日（木）に火災発生時の消火活動を迅速・正確に行えるよう、横浜市中消防署と駅監督者、係員が合同で、消火器および消火栓の取扱い訓練を実施しました。



消火栓取扱い



消火器取扱い

## ●元町・中華街駅、アメリカ山公園合同防火訓練

平成28年3月10日（木）に本社内からの出火を想定した防火訓練を、横浜市中消防署、アメリカ山公園テナント、駅および本社合同で実施しました。



避難誘導



消火器取扱い

## 障害・事故

### ●鉄道運転事故（列車脱線事故、鉄道人身傷害事故等）

鉄道運転事故は発生しませんでした。

### ●輸送障害（鉄道に起因する30分以上の遅延や運休等）

#### 1. 線路内立ち入りの悪戯電話による安全確認

《発生日時》平成27年6月22日（月） 18時15分

《発生場所》みなとみらい線 馬車道駅付近線路内

《概要》 馬車道駅の線路内に人が転落した旨の外線電話を受け、全列車の停止手配を行い、警察と共に現場付近を捜索するもそれらしき人物を発見できず、安全を確認した後、約60分後に運転を再開しました。

《対策》 本事象については、同時期に同様の情報が相互直通会社においても寄せられていたが、いずれもそれらしき人物を発見できず、対応策の検討中に、虚偽の通報を行ったとして通報者が逮捕されました。

#### 2. すい道内におけるアルミ風船浮遊による安全確認

《発生日時》平成27年7月26日（日） 20時43分

《発生場所》みなとみらい線 馬車道駅

《概要》 馬車道駅1番線に停車中の列車乗務員より、馬車道付近のすい道内にアルミ風船浮遊の通報を受け電気担当部署が現場に急行し、全列車の停止手配後にアルミ風船の撤去作業を行い、安全確認を実施、約60分後に運転を再開しました。

《対策》 アルミ風船の持ち込みに関する注意喚起ポスターの掲示や、駅周辺でのアルミ風船配布情報入手時における駅構内放送の実施、アルミ風船をお持ちのお客様へのお声掛け等を徹底することを継続して取り組んでおります。

#### 3. ホームにおける死傷

《発生日時》平成28年1月29日（金） 9時31分

《発生場所》みなとみらい線 みなとみらい駅2番線

《概要》 ホーム上の旅客が線路内に立ち入り、駅進入中の列車に接触。警察見解により自殺と断定され、事故復旧の処置完了後、約1時間半後に運転を再開しました。

《対策》 現在、ホーム柵の導入を検討しております。

## ●インシデント（事故の兆候）

インシデントは発生しませんでした。

## 安全対策

### ●横浜駅非常停止ボタンの増設・インターホンの設置

みなとみらい線では全駅に、列車を緊急停止させる非常停止ボタンを設置しておりますが、平成27年度はお客様から駅務室へ線路転落等の通報があった際に、列車停止措置を迅速に行うため、横浜駅の駅務室内に非常停止ボタンを増備致しました。

また、ホームで非常の際に緊急で駅係員を呼び出せるように、横浜駅に係員呼び出しインターホンを設置しました。



横浜駅南口改札駅務室内非常停止ボタン



横浜駅非常停止ボタン・インターホン

## ●可動式ホーム柵の整備

お客様の線路転落や、列車接触事故防止のため、乗降されるお客様が多い横浜駅の上下線にホームドアを設置しております。他駅につきましても、順次整備を進めてまいります。



横浜駅ホームドア

## ●AEDの設置

みなとみらい線では、全駅にAED（自動体外式除細動器）を設置しております。



各駅のAED

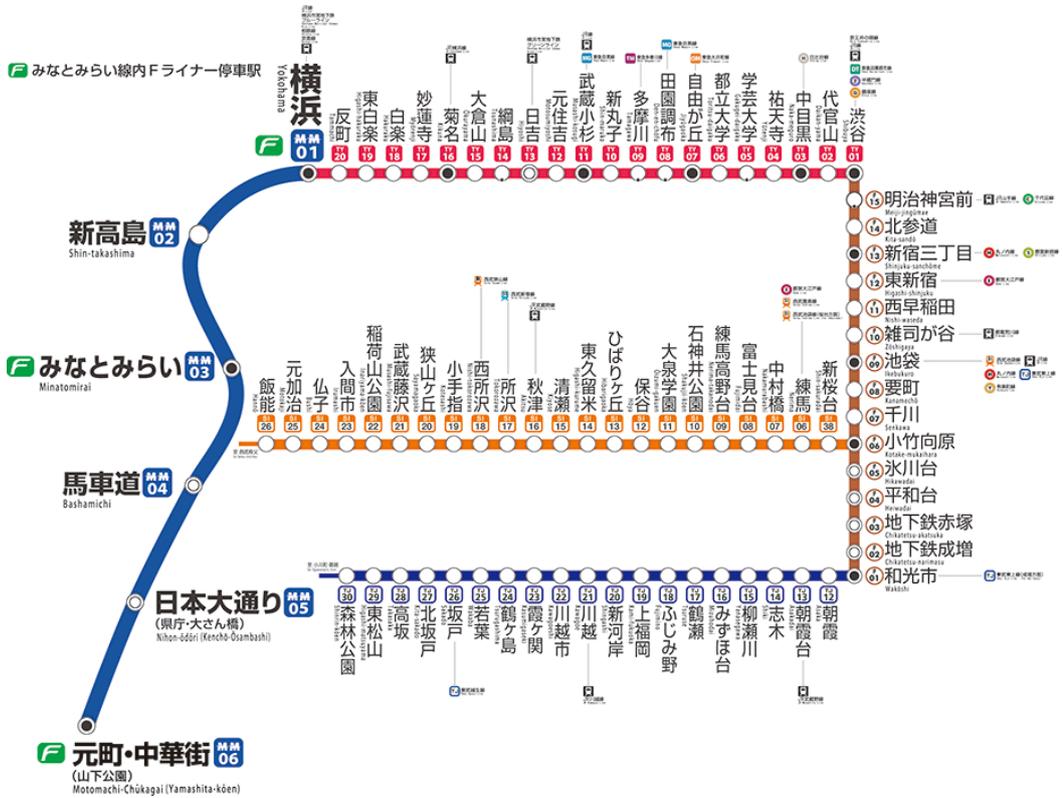
## ●ATC（自動列車制御装置）

みなとみらい線では、信号保安装置としてATC(自動列車制御装置)を採用しています。これは、列車が連続的に速度情報を受信し、走行速度が定められた速度を超えた場合には自動的にブレーキが作動するシステムです。

# 営業路線図



## 相互直通路線図



本報告書に関するお客様のご意見をお寄せください。

「平成27年度 安全報告書」の内容や当社の安全への取組みについてのご意見・ご質問は「横浜高速鉄道お客様電話」または「横浜高速鉄道ホームページ」までお寄せください。

横浜高速鉄道お客様電話

TEL：045-664-0629

（受付時間：平日 AM8:45～PM5:45、土、日、祝祭日、年末年始（12/29～1/3）を除く）

横浜高速鉄道ホームページ

<http://www.mm21railway.co.jp>

※画面最下部「お問い合わせ」よりご意見をお寄せください

